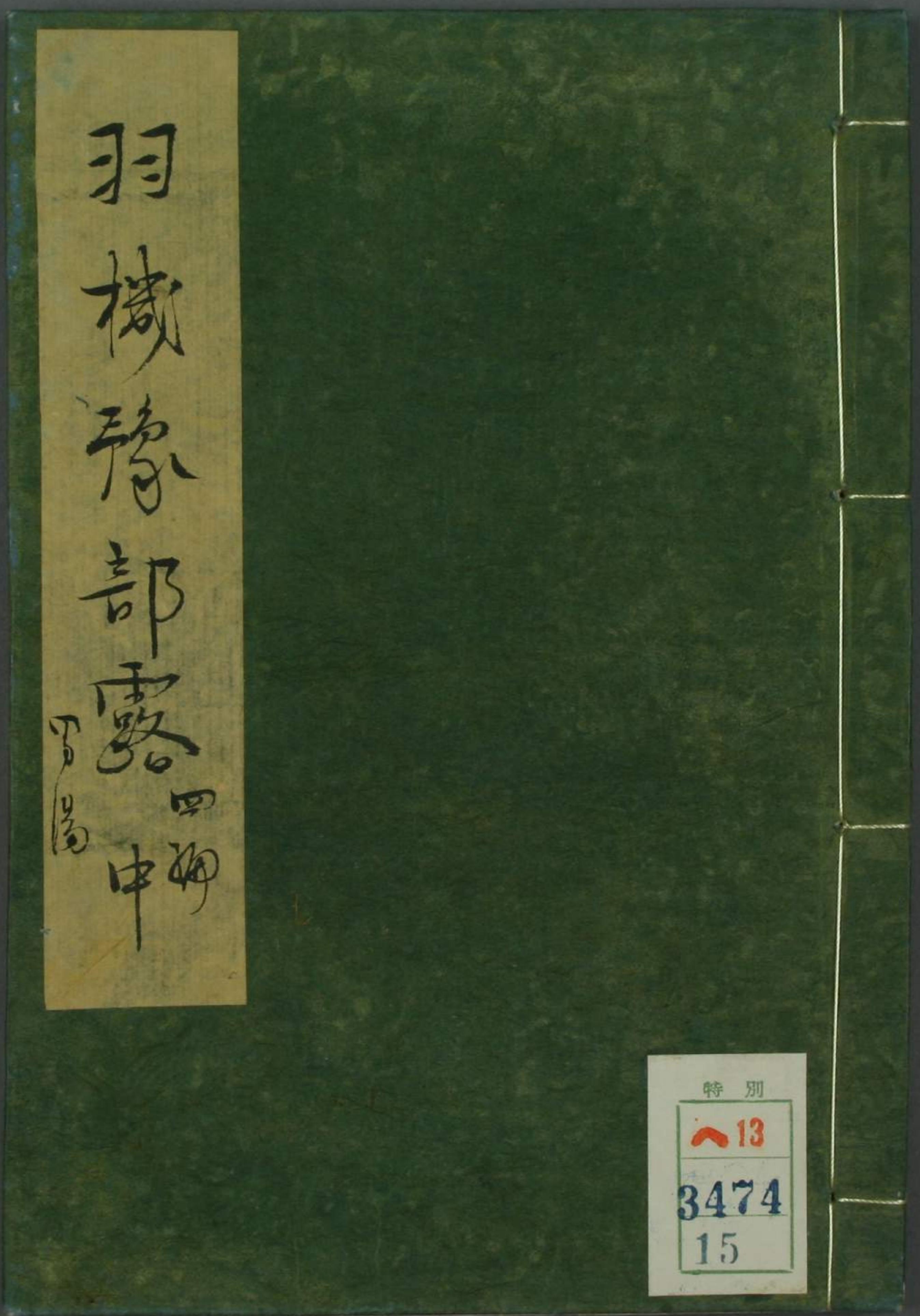


• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2 JAPAN

羽 機 雜 部 露 中

四  
中

特別  
13  
3474  
15



特  
13  
3474  
15  
明 號 卷

昭和二七年六月三十日  
購求

譯言浮世風呂第四編卷之中

男湯之卷

江戸戯作者式亭三馬戯編

やきあがる顔で變な里本田ふくらむ  
結かうる男りゆども近眼なり鼓八  
はと一あることモ。衰微さんでんごせんせんくホウ鼓八ふか  
こえりや早もあざしいトげきるまへあらわら  
機き等「別すまごの」モ。まあ。どうみゆ  
ほ。きのひもごせんすをふ。ねり先割くさんでも衰微  
どがトなまへたれどいなの近眼で、おきくまとどもよし思案

候す。こづりも苦ひせ。おうア昔の傳もなし。當付もあてがひと  
まそわくらをさせ給へ。まほだくえ給へ。そぞう老實さ  
にやうゑいへとひきとあうでまほのすうはーひを聴こ。アツハム。  
トキニまあ。おほのぞうはきつた。めうる一頃浦賀賀の方へ。知  
きもとト。さき。緑家が多メのう方ぐく左遷さまきのき  
づ。あさくら。おとす隠居。アその歎き。あく。や。春暮で稱へ。  
ホミ。新造さん。きがんよう。ミテ。やうご。左遷の方。新造さん  
どうなまじは。お宿みか。お里に。エ。土の。立。采。だ。や  
被ふ。やう。手。どうも。かく。後。女房と尼將軍の差圖。里  
まき。部このき。あうのまうに。あくさん。金をほうそ。面白い。おり。を  
きもと。云。き。と。づ。新造さん。こ。そ。う。あ。と。後。役。ご。ま。で  
只今。本家。ま。一切。す。ま。し。で。内。家。内。お。ま。く。下。男  
小。傍。ま。ま。女。とも。五。人。結。構。ご。ま。で。年。中。ほ。本。家。ま。ら  
る。通り。お。ま。だ。う。の。小。ば。し。料。ど。と。月。く。名。タ。千。あ。で。  
ハ。結。構。ま。京。ま。ご。モ。シ。衰。微。ま。え。社。月。日。の。下。で。お。生。れ。ま。く。ご。

其上にまごは不景氣。欲めん頂まで。ハハ「コウキムムハハ」も  
同じ。とぞせ「我アとも久々なりぬう子。ハハ」室うモシ。大きふ  
あくまで。世の中小老婆で社のござへませんが。九邦間  
の古くあるござりん。古物の會へもたまほせん。諸事ももさき  
まう。古物の會へもたまほせん。諸事ももさき  
真暗る内が勝利をひまと。なんでも血ま盛な時から。客の  
腹が痛つて一向まどよ。ア我ア先を面白くおこりので  
ござえま。そりへが腰ぐ目前、うえを。すく腰ぐるくとあれど。  
奴ちやも客のむねをかくと。客をひくと氣ふ  
きりぬもく。ココデ客人あもかとびれゆからでござえま。ウシテ  
まアコトくるゆまくらゆが。万引古くならん。己がままでゆふがはじい  
うと。まゆひくと。まゆひくと。爰でフ。今まで氣をもく  
まゆふなりぬまくら。まゆみゆまくら。吾輩のまゆもアまゆ  
せん。ちよいとお辞儀の百疋。あらうとゆまも重あと。てんと  
面白じ。サツサと乗牛。こりんでござへば。今ぢやアモシ。お辞儀も  
でもわると。まア身上の足ふせうと。まゆもともお辞儀も  
な。子ア。よくあきりんでござえま。イエサ。客人も其まうじでござえ

まと。潮未を遞へとう廻り潮未ふあうと子声きざひの歌みふ安  
き  
好みのといふお宿みあうどせ入まと声自慢でゆ自身よ遞ふ  
まふと。  
客ふうどく。なはづまく哥妓や。三弦ひまの二じがゆ年。  
そもたな<sup>タナ</sup>えらび。あやくさんがあづぶ。室うモレ。あやくさんがや  
せんり  
穿里さんのお宿ぢや。骨がどれまとハテ。わくみわ結<sup>マツキ</sup>どくと  
あそゆるのこう。取外<sup>ハサフ</sup>と淋<sup>カミカミ</sup>てなります。ヰサ野<sup>ノサニ</sup>帮間<sup>ハシマ</sup>きど  
すと。けれど。封帮間<sup>ハシマ</sup>でも。勤ねづくまづ難<sup>ハラカ</sup>めせん。ハ  
まひ<sup>ハシマ</sup>まひ<sup>ハシマ</sup>  
饅頭庵<sup>ハシマ</sup>や。砂糖坊<sup>ハシマ</sup>主<sup>ハシマ</sup>ざくしの<sup>ハシマ</sup>つけ間<sup>ハシマ</sup>ひにく達<sup>ハシマ</sup>せん。モ

横町よこまちとどせえまを。ハテ子。不<sub>レ</sub>通りすをぶ。エ。エ。是あり。黒<sub>レ</sub>屏くろび  
幕まく作の忍返しのばん。清地仕入の松まつがタツタ一本。外<sub>レ</sub>はぬもなれ掃庭。  
又通よ平屋ひらやで後うしろ樓造ろうぞう。成程せいじゆ。製作せいさくが別べつとなは。  
如案おもわらへさんまの「ウニヤ。あの家いえは泥醉ねざい。宅いぢど「ホイ。大だよ早  
まうはた子ま「あまむどとひどもまくらばき」此こ方がたへモ。お船ふね  
といふは船向ふねむきも「うさ。トント絶とまくか」三十人さんじんが揃そろの浴衣ゆか  
頂戴とうだい。後うしろ月つきを觀くわんる。せえすたなけ子ま「そんま  
も有あるけの。あの財さいを尚古じょうこが小舟こぶねで追おくる。と角くづご「めの  
財さいの江戸鰯舍えのきや」子の二ふた人じんも持もてはる波婆はなばとなほとなほを。まう  
りんと是これを鼓こ八やとも思おもひ。ありすと「富五ふく一い世一代いっせい」といひ更  
かの「ハエ。どうも。まだ。じぶじう。イヤモニ樓船らふねんでも供とも。中の生うま。  
大勢おおぜで仕退しだの料理りょうりが就さげばと子こ「各おのもとく。肉にくが寿す絶とまる  
アノレ。卷中秀送くわんちゅうしゆそうといふ匂にお。平庵へいあんさんの案あん。白玉しらぎょく餅もちの油揚あぶき  
さ子さこ「今いま」。揚鍋あげなべよ油あぶきの猪いのしの案あん。白玉しらぎょくの揚事あげご  
を。あひるを大根卸だいこんおろしで奇妙きみょう。ト牛うしが社子しゃし。錫鉢すずはつのあれ物あれもの。有ある白玉しらぎょく  
吸物椀くいものわんへり上あがく。ト。揚鍋あげなべの中なかへ入れとて候まわ。ヤと候まわのひの。

名や。一もふ水鉢の白玉。どくら。足らと称さう。ある。イエサ。邊  
侍者一人もす。まづ一番ふむ。筆をスセ付。トコロ。彼  
白玉。どのを見る。寢がをじい。クレ。ゆでござくアス。白玉を一齊  
入。手をどく。一向よどくして。一向箸に。から。ビ。イヤ。どくも  
モウ。腹筋。ごどく。は。イエ。ゆの時代を肥腹。うる。びのけと  
ござく。よ。それが。今ぢや。舟といふが。二文で渡舟。乗る  
ば。りき。両国。施餓鬼船。も。乗やせ。く。へや。く。ほ。」  
衰微。さん。どうも。う。後へ。いや。わん。小跡。月乘。く。卫。寺。指。成  
か。と。う。け。ふ。屋。根。舟。で。出。中。冬。向。島。行。後。く。舟。を。白。錦。  
著。させ。て。寺。島。の。鞠。宇。和尚。庵。へ。倚。す。た。」  
角。一。き。アイ。株。が。丘。さ。ゆ。の。庭。大。ち。よ。く。な。り。は。く。和尚。が  
丹。精。そ。く。く。園。と。よ。く。傳。り。四季。と。う。小。景。物。が。あ。る。百花  
園。と。呼。で。も。み。て。往。下。私。も。春。の。梅。付。し。に。和。靖。ま。ん。の。お。供。  
あ。と。う。茶。碗。を。貰。ま。た。け。く。碗。中。一。と。み。梅。の。輪。で。外。ふ  
堀。の。内。ま。み。の。納。傘。と。つ。宝。行。で。銘。が。こ。せ。ほ。と。せ。ナ。サ。隅。田。河  
苍。屋。敷。哭。四。居。底。の。中。が。百。花。園。梅。屋。菊。場。大。明。ね。と。す。

ある所でござへまると子「大明宣化年製」の。此写七草考

の本のをねてすと呉中とへ。何う禁物でござりますう「ナ」。

七草の考さ「ハテチ。どんみ笄でござりますう。まだ時元出ません。

ももく流行物うふ私どりがあくねといふもの役入若びへ」。

それぢやア秋の七草の考さ「ヘヨ。秋もモシ。唐土のものと難」と

えんでむじあこゆう子「ナサ」。またま共の七草。まご秋の七草  
といふがわる。其草が異説區どう考訂と本であらも梅屋の  
著板さへエ。それちのもの構え。キを通ド。「トキニ。」

上りやせう「勿縫」。うそ有があれびのぶ。魚甚がすゑろちん

「モシ。ほがくとも。おスレギとく有がまつおぜすら。」

ひそ當財のお慰がとせませず「浦がなぐるとせうるみの  
冲鉤。其外ハ俳諧と庭のうり。何も所在がゆくてあまうす」と。

まゆ草鞋を作て窓へはして賣う子「冬のりの。ア」と  
モシ。お手巾をあやりはせう「ナサ」。切落うふ四付が当身と云ふ。

「あらうする。どうもなまく極。ア」と▲熱<sup>熱</sup>下りの男ひうち住みく<sup>住みく</sup>何う  
とくすふう下草を<sup>下草</sup>もあとの暑ぢやナ<sup>暑</sup>そんうふ筋<sup>筋</sup>ぞうば

多病でもかまひがひとあやういえをよ。あちくへ五十年の月日  
を百年かる。牛睡あり。朝寐あり。五十年の  
月日寝て消さう。帳立てると二十五年かかる。七十五年活  
早起と運病ねが五十年が百年の割ふたといでモ七十五年活  
延る極きりんぢやう。又われて浮世ぢやさう。なんがも欲慾よど  
通ふ触り。や番頭さんもまふ頬で立くみゆがおれ。別のものちや  
きのが。飯食を。着物着て。所帶のぬかなる女子をあらす。う  
私が算小持とい。其代只つづりぬ。鼻紙代とて。錢五百。月に  
まくる。ナニト生業きう。相送ぢやう。有な世話してり。セ。ヤモ  
獨まもわらとそろひ。まどア宿這入。六十日そとうぢやう。朝  
く。ア笑んせや。朝ア起る。社アコテ。お目見えがゆると殿おおまゆが  
く。手桶ておけを下て。井戸いのを入か出がゆうぢや。サシあ汲くで事ても鹽を  
く。放はなく片掌うしへ水を洗て。こしくとお顔の摘洗ぢや。掛竿かけ竿くし  
ぢやによろて。手巾てぬぎと雜巾ざぬぎとを邊て。拭ぬぐうがゆ有ぢや。さ  
きとみ。それと間て引密明る。まご星明ほしめい。社やあ  
降おく。ア申せ。引窓ひきまどあけ  
障さむ。

かと窓へぐせうるい。トツトア。苦居でまゐる。圓試合の夕振  
煙箱まじて。まづマ火焚くらひ。恥りんも利き。睡えぬ。  
茶釜も釜も買ね。天ふも地ふもかけぐさの古鍋ひとつを頼とする  
ちや茶釜土瓶ごねりや一日さんぶの余るこアやア。射のサ汁ぢや。とリや  
又をらう好みやりどす。勿論雷盆す。又有と逆獨創たけの味喰えり。  
雷盆と雷盆へはむけて仕事りい。まよあゆておけの代よ飯の味喰葉  
ぢや。ハテ味噌と薯と白湯を呑。まよの中で社加減のむけふうう  
ぞの川へア。焚くも焚くもせの跡を取るもとが淋みのさう  
其の後放半て。ワイト商ぢや。サラ。おまつて居つてう。あものく行つて  
居くのよ。さて早。喰りなけりや。爺さん居らへよう。トキ  
りのもの。ひいひ。ハイ呑。房りほ。今宵もまつて蒸ますとナア。隣  
の家へ毛相ひみて。預て處と鍵をうけとる。此又鍵を預るて云  
ても裏借金。ト。口を指。生きまほ。あまひのう。ちやふよつて折  
や。あまのゆれ桃す。五つ。と。も。西風の安樂。十八文  
でもまんがん。ちづちづう。ちづ。あまのう。生ひ  
射へまろのぢやこう。をざこぢや。イヤ又く施や悪う。報ひ

向の寧や處の見ゆ。そ對ひてわやう口たゞけ。まが煙ふ。  
秋まけて。わるい。や。茄子。田樂。が。かまく。威。まき。蛤。松。ト  
とつて。平皿に。むらさわづ。ハ。マ。ア。ヒ。一。体。豆腐。が。太。とき  
ちや。ひど。小半挺。買。う。り。方。が。う。金。て。大。も。安。く。せ。ざ。う。ら。や。連  
まく。と。う。や。た。う。え。き。だ。う。ふ。と。ふ。ち。ト。や。連  
皆。食。ふ。が。役。ま。す。や。ま。め。魚。燒。豆。腐。一。買。て。腰。て。愈。て。ゆ  
ち。や。ヤ。モ。幸。勤。と。い。か。う。け。板。み。る。ま。ん。り。早。う。寧。は。ハ。テ  
食。物。ア。ぞ。ん。東。と。わ。ま。り。そ。と。そ。で。な。い。き。と。う。と。た。女。す。が  
有。す。世。活。と。ぐ。え。せ。あ。曲。か。の。女。す。と。言。語。の。と。げ。い。山。あ。る。  
物。の。が。荒。う。き。と。え。る。可。闇。ら。じ。は。き。して。疎。く。べ。と。や。う。た。  
ひ。ふ。や。ち。や。こ。う。松。す。ぐ。と。ほ。ま。る。一。見。赤。て。辟。り。あ。じ。や。ヤ。ヤ。  
寂。く。獨。者。の。倦。く。初。ハ。其。様。す。め。お。り。や。せ。み。べ。ざ。が。此。頃  
と。う。か。と。声。を。上。か。い。バ。シ。トリ。や。内。へ。往。く。登。級。の。支。度。す。  
せ。う。ひ。ヤ。射。下。八。百。金。さ。く。う。と。え。と。ライ。ヨ。リ。ヤ。く。八。百。物。即。まえ  
く。ち。よ。と。待。て。と。う。セ。ト。よ。だ。の。だ。の。そ。へ。ま。と。と。う。か。と。荷。の。中。に  
ゆ。の。で。も。解。き。せ。く。ハ。ア。ま。う。ひ。ハ。テ。た。あ。と。う。く。あ。が。ゆ。り。  
今。ま。あ。何。を。使。う。る。ヤ。あ。と。鴨。型。く。鴨。型。と。鴨。型。と。あ。へ。ん。え。達。

「今てのもの」  
「どの色を風どまきの色の丸い物で白う粉のふる  
物ぢや」  
「今。それと風どまくがん。どうべじやめよ。とまき  
ゆう「ア。そなと云居る方よ。お裁初要へ往らて幸事か」  
往る所より買ひたびの徳ぢや「ホイ。宝う風ト便今度うとゆ  
う。代物の名で管ひうます。安ふゆつても其内的一种を  
よ。サ「コット皆までうえます。元である。トマニ又スヘコット事ギヤ  
ヨリヤ「生姜よ」  
「ア。スルちう。トキリヒニシトのた。  
萬の一聲ぢや「生姜を生姜が買ふまし「生姜」と「おの  
かうのあひつけ世人を。生姜とキニコ「又いぢい「ア。何を上  
手と子「コット待うり。待かそりや。斯ぢやにトコト待とキナセモヤ。  
ト青物の荷をきまう。ままで青物  
ノそ一あきの急離人せきる。一物を上手と生姜ウヤ。ありやア。おれ。  
大東と大東がうん。此下小東もゆりすと。けるわせ。握ギア  
孰かまうまつ。「イヤ。まあ生姜ハ並てぐんせ「白風ハどまき  
唐茄子十六大角豆冬瓜丸漬瓜袖茗荷青菜蕃椒。その  
スうまる通り。さんと買てくえませ。べふやう小荷。う  
「うまくそなとねへ「チト富は待屋でぐんせ「おまきを

中  
上

算のうす。食の聲をすまぢや。ももかどれ何で待客  
の。子イマ守る所あり。呪物エイヤト。うえど子。秤と筭盤  
○江戸者の商へ言ひるどく。上方者の買へ言ひしく聽る  
いふ。物薈より立廳ひ。賣人と買人と取遠さうなり。待や  
を筭盤で買居て間へ。会りん。あてとも後。おり知れ切  
物。能か減に立候せ。買ませく。商人が秤と筭盤で買ふ事。  
誰が叱らうぞ。そりや。もし。上方のゆき。お裁物を買ふ。そんを  
真似。ちや。わね。上方で買なせ。かく。賣候。ヨシハ百駄  
さん。其の後。や。物ぢや。ハテ氣極う。しや。高ハ。もんひつ。  
そん。ト能ハ。何と。ア。山當地に。頃りて。秤の止。又。筭盤も  
技。能。能立。志。お。度。を。下。度。切。も。や。う。そん。そ。そりや。  
立。切。を。そ。賣。物。買。物。サアサ。社。腹。立。ま。此。唐。那。子  
え。ア。是。も。あ。せ。ア。リ。ア。沙。村。ア。ソ。モ。持。て。來。る。  
が。の。を。種。ア。う。う。精。そ。も。の。の。本。の。ゆ。う。が。出。う。遠。ア。ハ。  
そ。や。聲。店。う。い。ま。う。菊。坐。の。大き。う。能。げ。う。是。う。が。ア。夫。  
そ。持。正。の。経。下。十五文。に。と。上。キ。ヨウ。ト。び。う。あ。う。か。

三十五文とへるよりぞ。そんづふ物りきる並ぢやア後。四日へ繕て  
又絶本ぞありて。かゝツきう買附され候。四日へまうじよろ  
ヨリ方の相場。をがぢやあうて。ヲハ文。其根ふ  
けりど付ねぢやのよひ。四日へ往くと。せでシあきらヒト。  
ト義を答へ。ナリヤ。待て。で。ハ文もゆづ。買へ所から  
何百でも買へ。貴て。ハテ甚極。か氣無く。いふと。相談が  
ゆる。ハ文。引ざ。九文。外を聽て。と。が。ハ文。も。ま。さ。ま。  
ま人のを貰ひ。是でギリ。が。サハ文。も。ま。さ。ま。

り。ゆき賣。ト。カ。ロ。セ。ユ。シ。ト。ハ。百。金。ま。く。ま。  
ま。相。達。が。ゆ。ニ。く。ま。ん。せ。ト。ち。まで。買。ま。う。く。イ。ヤ。サ。そ。こ。が  
ト。ア。キ。う。え。ん。物。ち。や。ち。ん。と。ハ。勘。あ。り。そ。う。も。ち。や。ち。ま。す。商。  
ち。や。な。い。い。ふ。賣。ま。き。づ。き。ひ。な。す。宿。小。ゆ。ん。せ。賣。ま。き。ぢ。や。さ。う。い。  
は。根。ふ。暑。ま。い。と。か。ど。重。の。荷。う。の。で。ゆ。く。ハ。テ。ニ。十。五。文。ト。二。千。ハ  
文。ト。ゆ。く。そ。う。や。現。銀。ト。正。み。ト。ま。人。ゆ。ハ。よ。う。る。び。ど。勞  
ガ。チ。ト。ユ。令。が。思。い。サ。サ。思。切。ト。十。文。ト。タ。ま。そ。ま。き。ト。二。三。音。も。コ。リ。ヤ  
い。そ。が。の。ハ。コレ。ハ。百。屋。ま。ま。の。み。お。ま。人。捨。て。行。き。無。事。す。す。

卷之三

中人十目

あくつかう居ると外の商をみ損て「是がまわいはめのまづや。  
お酒でも貰とあやせまひ。」とももまん不連々。先刺り頭  
割りじき。つまざふ心がドツキと云ふ。暖は虫めうづくらす  
商  
ら商「サアそんまふ下から遠くへ垂切りやへせ。掛直が云孫へよ。」  
うそまふ。なが一漬の方う「イヤ。」焚のぢや。「焚茄子あもあうし。  
うそぞうい焚みて食う。」商「江戸でへ煮みて食ふと云せ。」  
サク茄子あもあ星がい。一漬。おぢやなどひとくすり。」商「茄子よ  
もあへるき  
「生茄子とひうちや絞り。生茄子とひうんせ。」商「うんせども。」  
早く桔梗。これが三十五文高「ヤ。又三十五文。」もまん三千  
立文高が好ぢや。」高「それどうて三千文。」あり。甚代高「すゞ甚  
直高「ア。あちく唐に茄子で三十五文。あアや茄子十て三十五文。  
きくひ逆高「掛直。」高「早。」高「あれ。」高「登。」高「う  
摸つらや。此方の身上よからず。」高「ト先叱高「叱。」高「ちや。」高「  
あく連ふかる居ちや。」高「暮。」高「あてもも祕く。」高「ハテそこか  
高ぢや。」高「高。」高「傍なしの根。」高「利。」高「屋。」高「サク。」高  
でも社く。不景氣よもが。」高「サク。」高「脚をえませ。馬鹿く。」高

さあうも移人。物見遊山の歴物ぢやねん。わ人のよ。向のゆまわ  
賣物うりごとくなまきれて。虫をさうど居るれど是が又地  
どうあらわ。因志の墨取いざなへ。座くわは皮横ひよこぢやう。ボシニヨ。仔えのほまわ  
今すで打參ひだらへりん。ちやうそりまづて。かんとひよゆのをえ  
呉くれらア。財後言ざいごも船加減ふねかげんへりん。がりつちやア。ひよど  
ば方こうちゆもま相應そあむふ落神おちじん。有あアドアドかかカカ。赤レッドかカ。一イ年イニまマ  
ハテキス。もすくもぬりて。ぢやのよ。橋はしの道連つづせ。情じやうぢや。一株イチブの落  
ひとなまこ。の唐茄子とうなづな。ハテ。賣うりる。買くる。他生ほかじやうの縁縁。育いくまつ。そりやう。

すくふ落神おちじんさへがなましゆうまひ。我等われらすぢやと。お伊勢いせ  
がたがたともしき。サウトトまづ。づらづらとも大き大きい。そりやのう  
茄子なすの十じゅうも。たぶ。さくとくとく。頭あたまをまへ差さへてたた。がく。  
までもなまの買くて。上うる。サウトトまづ。とづ。相後あわせわちや。又  
相後あわせ物もの。もとア掛直うけね。りべ。と先まへて。とく。並ながさア。サそれも高  
の掛けかけ。コリヤ軍配ぐんぱいとくすんぢや。商しょうさもがまやなる。商しょうも。夙ゆめち助すけ。市いち  
けちけち。「二十五文ふか買くま。ようろきあ」「まだ現銀げんぎんみゆきみゆき。サそれぢや  
らふ。トユロねき。直切ただきりも。電でん敵てきぢや。まことまことも。電でん敵てきぢや。二十五文

ちや買うひ。三十五文さんじゅうごもん。おのれをされいやあり。負おのれ。まよふ。買うひ。  
立よ。トトき時とき。何なんでもなない。商しょう。  
通とお。早くはやかとつけ通とお。ササつつきき。アア待まんせ。トトり。魚さかな賣うひ。食くい。の上うへ乾鯛かんたいを並ながめ。  
八首屋やしらやライ傳伝ム。どうどう。はは。勝かつ。ひむひむ。賣うひ。勝かつ。勝かつ。  
コウこう聽き。先さき刻とき。無な窮きゆう。此こが。通とお。人ひと。通とお。  
通とお。あうあう。通とお。も様さま。も様さま。通とお。虛きよ。通とお。社しゃ。日ひ。通とお。  
金かな。金かな。通とお。川岸かわぎ。土用どよう。通とお。  
ひり。ひり。通とお。乾鯛かんたい。賣うひ。

「みちりのゆき」傳ちまきへ  
在ゆきより精進しゆじんぐゑも。うふ本直ほんじゆ。  
出入場でりゆうじょうへおひてく無なきやア協きみねへス。まみふ天津あまが  
賣うす。方かたて持もすいとひよ。川岸かわ往むかてくると危ごう併びん。  
北子白里きたこしら三浦岬みうらのさき。

「ゆき」傳ちまき  
ゆき。ありても松まつまつぎの画えの要いそひやくちかくかく。高たかくておひとがまほの  
夕川峯ゆふかわがすべすべ。うちうちごそりとくくもや。ライツレのア  
ラリ。シ戸戸あ物ものへまにまくのをへ。盆ぼんをひつも湯ゆまます  
はせせせ。お裁きがい。手て骨のうとれゆで。ナシ癩病うろこの瘡うずき恨うらみ。

通とおり本ほん。身みの痒かゆ。先さきづ瀬せを出だまゆとまとまとゆ。やうか全ぜん  
だアスアス。そとよりのよよ。精牛せいぎゅう。ゆきゆき。アイ。トとままうりをかうと  
ああらと。魚屋うおやさん。その乾魚いわしごのなんぢ程ほど。ぞのそのととどもも  
コウ傳こわう。こくうゆと經き。せやらの乾魚いわしご等とう。一生いっせいまでも食く  
種たね。徒たど。かまうと行ゆ。百姓ひん。一いつお百姓ひん。ホイトホイト。手てををり。御ごををぎる。  
ヨレヨレ。被はせ。乾魚いわしごをそらそら。アソの青日物あひのををらら。能のハ。ハテハテ。さて。山幽さんゆう地ちの  
まきとまき。向裏むこうへ往むかて。すやせう。ハモハモ。能のハ。ハテハテ。さて。山幽さんゆう地ちの  
高たかく。えと。あくのぞんきぞんき。アソの。まく。五合ごあ。おち。くらふ。薺くわ。

立綱「何でさんぞ。乾奥を首うり骨までむしと咬  
ぐのとえあよ。其様は役さん甚ぢやうひ」<sup>ア</sup>ナ井錢は  
のるを「うんが強ても殊々咬く」<sup>ア</sup>百性<sup>ハ</sup>  
高人<sup>カミ</sup>「えの間違<sup>ミス</sup>。サク<sup>タマ</sup>筋<sup>スル</sup>「おま人の活<sup>ハタ</sup>あら  
びと待<sup>マ</sup>さう。直切<sup>ハギ</sup>でも大<sup>ト</sup>すみりた。エ待<sup>マ</sup>よ。ト<sup>カ</sup>ト<sup>ウ</sup>ト<sup>ウ</sup>  
立切<sup>ハギ</sup>くそ<sup>ハシ</sup>。江戸子の物買<sup>フ</sup>極<sup>ム</sup>太風<sup>ハ</sup>買<sup>フ</sup>不<sup>ハ</sup>ト<sup>ト</sup>  
半分直<sup>ハ</sup>「<sup>ハ</sup>半<sup>ハ</sup>立ちやうひ。二十五文<sup>ハ</sup>二進<sup>ハ</sup>十<sup>ハ</sup>。  
ナエ<sup>エ</sup>江戸子<sup>ハ</sup>素足<sup>ハ</sup>ばらう。ナエ<sup>エ</sup>おまうひ。何のうござる。

さ。もきや<sup>ハ</sup>エトかこ<sup>ハ</sup>のじだのじとあまう<sup>ハ</sup>高<sup>ア</sup>もきう<sup>ハ</sup>。モキッ  
あ<sup>ハ</sup>まう<sup>ハ</sup>がうも<sup>ハ</sup>だ。ま<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>「ヤキ<sup>ハ</sup>。ヤア<sup>ハ</sup>。そ<sup>ハ</sup>や  
ニア<sup>ハ</sup>まう<sup>ハ</sup>。八百屋<sup>ハ</sup>。草<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>寢<sup>ハ</sup>性<sup>ハ</sup>。テモ<sup>ハ</sup>とも立<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>く  
立<sup>ハ</sup>ナ<sup>ハ</sup>。サテト。立<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>イヤ待<sup>ハ</sup>。立<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>もん<sup>ハ</sup>能<sup>ハ</sup>江戸子<sup>ハ</sup>の声色  
立<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>ふ。高札<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>。バア情<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>ア。コ<sup>ハ</sup>ぶ  
実正明白<sup>ハ</sup>也<sup>ハ</sup>。立<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>實<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>立<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>下<sup>ハ</sup>。七割引<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>「なま<sup>ハ</sup>立<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>立<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>  
幸<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>小便<sup>ハ</sup>「<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>買<sup>ハ</sup>立<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>。立<sup>ハ</sup>せ<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>う。君子<sup>ハ</sup>二言  
立<sup>ハ</sup>じ<sup>ハ</sup>。高<sup>ア</sup>う<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>。百<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>養<sup>ハ</sup>ようう<sup>ハ</sup>。ヤ<sup>ハ</sup>ト<sup>ハ</sup>「五十<sup>ハ</sup>エ<sup>ハ</sup>」<sup>ア</sup>。ト<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>

其根山は山買てどうせうぞひハテ安の物ア。此茄子アセ  
駒込ア。りんのるよ山茄子すゞく種ひなづくコレト社うち  
あんせ本所茄子持あるとナ種ハあれど梦て食ふと山より  
教といづらひのもまえざのとも自由さんぢやナハテまう乞  
まくらんみ山のまねうあへてお「ササそんうま杜ゆもせりき。ニア  
數の所ぢやアト。辛五文の二の履ぢやまうにト。三干乃十五景。  
五文の三文半で十七文半とあるナ。ト社うち。トがぞまことの數ハ  
ひくらニツチ。トまものまほび。トがぞまことの数ハ  
ひくらニツチ。トびくらもまほび。トがぞまことの数ハ

「あまニツエライノ「たゞニツケ「まわがの二ツがうり賣ア  
りんうナ人を馬鹿ナタ「ニツぢや辻賣くわんとくどきのすりん  
ぢきの巫の押合アて甚割で買ふよ裏れんとく。ナトきとくえりん  
ニツヤニツハ八百屋へ行て買経。一ツ六貫銀ももくア「まく人魚屋  
ぢやす。八百屋さんぢやうひ。トワトマクくんお方ナア。コレ聖人の  
方ナア。甚改う。甚改う。甚付損。甚茄子すひとく。甚セ「ヨツ  
ヅド。甚うらの甚を店をさけ損。立さう。ヨツ。甚往う。ヤ  
立往。アノ木附損ウ「ナニぞもく「いニツ賣やせう「アトや又

立候くといふさうひ。其後をとらか。錢出せぬ。とりや。或もや。故  
あ。サア。其中で。き重うりと。目方の。わ。まう。ニッ。ぐ。ん。せ  
テ。テ。社へ。や。こりや。其方の。と。替て。も。それ。ラ。ト。よ。しく。ま。そ。  
能う負ふ。ま。ナ。ま。か。折く。毒性。ま。う。う。ん。き。れ。と。  
一。体。の。財。根。ハ。本。も。方。じ。も。ナ。併。ト。ウ。ト。江。戸。の。方。ハ。皆。な。根。だ。や。  
サア。往。か。れ。一。二。三。四。ア。リ。ヤ。四。文。ば。ま。ぞ。四。七。ぢ。や。う。四。四。の。十  
六。文。ツ。一。社。ナ。唐。茄。子。グ。十。三。文。よ。今。の。ぶ。ニ。ぞ。ニ。丈。五。ト。ぢ。や。グ。  
半。涉。ハ。乃。在。が。ま。じ。い。半。も。歎。て。上。し。亦。が。ま。之。の。方。す。も。  
ち。う。す。り。縫。合。と。欠。缺。も。あ。ま。る。が。ス。コ。ト。が。方。ゆ。る。後。家。交。渉。を  
ま。り。う。い。そ。り。や。ア。ト。に。五。う。の。徳。が。ゆ。り。も。す。人。ふ。五。う。の。損。が。わ。と。ど。  
こ。ア。や。是。天。地。自。然。の。損。徳。も。ち。も。五。う。く。の。損。徳。も。ひ。ば。き。く。  
行。司。領。り。奪。す。と。ナ。ト。あ。く。い。物。う。サ。サ。十。六。文。を。れ。む。ま。れ。え。と。  
能。う。負。ま。へ。と。ナ。ア。ユ。レ。財。改。あ。ま。わ。や。ひ。よ。う。と。古。財。交  
ト。薄。を。ヤ。シ。メ。ト。テ。金。を。あ。わ。つ。せ。ぞ。う。く。ト。ひ。づ。の。を。れ。う。ど。の。  
そ。壇。ギ。く。も。あ。ま。の。耳。く。も。ジ。錯。う。ね。も。破。損。ハ。な。い。も。ア。不。  
星。宿。ニ。お。ん。と。お。う。の。よ。ヤ。ユ。レ。其。義。の。屬。ふ。あ。く。は。假。う。す。

商足アキ。コリヤア何アモウナ算アシカと云つてゐる。されば。新算アシカとも。物を較アシカる。ありやアも裁の義アシカもあくびアシカう出ダさ福アシカは。ソアとて。か詠アシカへ。寿アシカの算アシカごとく。まう思アシカて。おぞまし。こもれ。欲アシカア上アシカ手アシカ「アマハジニセ。主アシカハ。千百アシカでも。貴アシカて。金アシカ。」商サアスナセ。ひつみ算アシカ。おのどとも遠アシカく。推算アシカ。でも福アシカ。ササ新算アシカ。まよ邊アシカ。苦アシカぢやつひ。コリヤア少アシカん。が八百屋アシカ。主アシカと負アシカて。主アシカせ。ア。トヌヒラハテアシカ。ア。リ。の。物アシカ。主アシカ。其アシカ上アシカ。負アシカ。サセ。そぢ。ア。此。

新算アシカと貰アシカて。坐アシカかう。かう。そと。袖アシカと。一アシカ。負アシカて。主アシカて。行アシカせ。早速吸アシカ口アシカと。はる。や。高アシカ。あまねも。あ。福アシカ。ト。角アシカを。かき。りく。・。ケ。助。八百屋アシカ。主アシカい。射アシカう。負アシカて。主アシカせ。コレハ。まね。モ。エ。ライ。八百屋アシカ。主アシカ。で。おん。で。や。の。よ。ハ。ミ。ア。助。さん。大。ま。る。声アシカ。私等アシカ。門首アシカで。ど。する。声アシカ。二。三。町アシカ。晉アシカ。や。せ。う。八百屋アシカ。主アシカ。裁賣アシカ。ご。と。あ。く。よ。つ。ま。う。て。ひ。う。福アシカ。ど。じ。て。も。上方アシカ。者アシカ。如。在。名。ゼ。人。を。が。こ。う。と。ま。わ。る。子。ち。よ。射。う。も。う。ゆ。せ。う。ざ。え。秀。ひ。ふ。も。ま。き。う。せ。か。ひ。う。な。ひ。コレ。コ。主。せ。晋。私。千。算。

貰ひて。ありや。新算といふ算ぢやが。宇治拾遺をもとめ  
ち。其の昔本に。紙う書記ある。物ぢや。どういふ物か。試  
みよ。さう。此ニア茄子とねりどんあ。其残つて。其残つて。其残つて  
吸物す。私食ひとくがゆ。ヨット。うゆく。

「ヤモリバ」「ハイさあうなまら。

江戸の名  
五十文はうち三十文。ゆきびの入多手引。もとお  
百文以上。ゆきびの入多手引。もとお  
貴異屋の山陰走り。百文以上。ゆきびの入多手引。もとお  
貴異屋の山陰走り。百文以上。ゆきびの入多手引。もとお  
諱話浮世風呂草四編卷之中

甲

革時式と二馬店

